

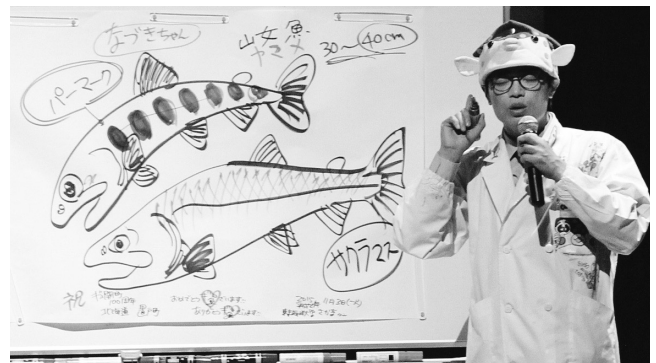
開町100周年記念講演

さかなクンinおけと 「さかなと環境のはなし」

東京海洋大学客員准教授で、お魚の豊富な知識と経験に裏付けされたお話や、そのキャラクターが子供から大人まで人気の「さかなクン」の講演会が11月3日、中央公民館で開かれ、600人が訪れました。

「置戸町の皆さまとお会いできることを楽しみにしていました」との挨拶で始まり、置戸の川に棲んでいる魚について白い紙に描いた魚の名前を当てるクイズを行い、小学生は元気よく答えていました。

「置戸の川に棲んでいる清流の女王と言われていたヤマベは川では大きくても30cmから40cmですが、氷河期に寒くて食べるものが無いので降海した小さいヤマベが海の豊富な栄養を取って60cmにもなる。川にいた頃は体に斑点があったものが外



敵から守るために海ではきれいな銀色となり、サクラの花が咲く頃に川に戻ってくることからサクラマスと呼ばれ、秋まで川で過ごし産卵する頃には体はピンク色になるのですよ」との説明に聴衆は頷いていました。

そして、海を潜水した体験談から魚を取り巻く環境について「海底にゴミが多く、海を漂っているゴミ袋もあり海が汚れている。ゴミを魚が食べたり、体に巻きついたり危険です」、「お風呂水は冷めてから流して下さい。川が温まると、魚が卵を産む時期がずれてしまいます」、「食べ物は感謝していただきましょう」と訴えました。

最後にさかなクンは井上町長からの記念撮影の依頼を快く引き受け、子ども達が壇上に上がり、一緒にカメラ撮影を行いました。

